NEWS RELEASE

京都中央信用金庫
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91番地

２０２６年４月２０日

第39回「京都美術文化賞」受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金　理事長 白波瀬　誠（京都中央信用金庫会長）では、顕彰事業である第３９回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

１．第３９回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

星野　暁（ほしの　さとる）　陶芸　・　80歳
素材との直接的な関わりから生まれる土の特質や存在感を表現し、実績を重ねている。

村田　好謙（むらた　こうけん）　漆芸　・　69歳
伝統的な漆芸に多様な技巧を融合しつつ、焦点の定まった作品で、漆の表現の可能性を追求する。

大西　伸明（おおにし　のぶあき）　現代美術　・　54歳
樹脂による型取りや版画技法を駆使し、身近なモノの在り様に独自の視点を提示する。

２．贈呈式

日時　　２０２６年５月２５日（月）午後２時３０分
会場　　ウェスティン都ホテル京都　葵殿
　　京都市東山区三条けあげ　ＴＥＬ　０７５（７７１）７１１１

３．京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に対し、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金１人金３００万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。１９８８年５月の第１回に始まり、今回で第３９回目の贈呈となりました。

（１）選考委員（敬称略）
太田垣　實　（美術評論家）
潮江　宏三　（京都市立芸術大学名誉教授）
篠原　資明　（京都大学名誉教授）
福永　　治　（京都国立近代美術館長）
冷泉　為人　（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長）

（２）受賞記念展の開催
日時　　２０２７年1月（予定）
会場　　京都文化博物館

（３）過去の受賞者（別紙一覧参照）
受賞者総数　１１７名(今回を含む)
絵画　　４３名（日本画２１名　洋画１４名　版画７名　その他１名）
彫刻　　１３名
工芸　　４２名（染織１３名　陶芸２０名　漆芸５名　截金１名
　　截金ガラス１名　人形１名　ガラス造形１名）
その他　１９名（写真３名　ファイバーアート５名
　　マルチメディアアート１名　現代美術９名　花人１名）

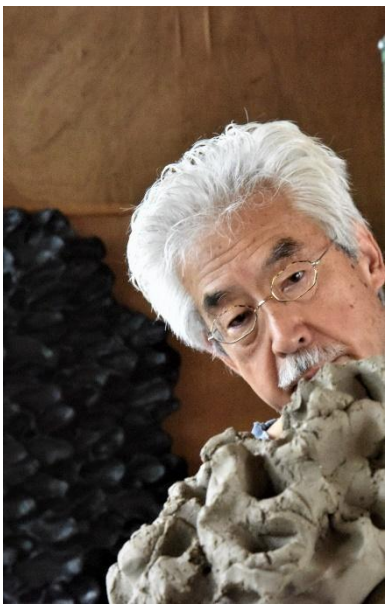
・受賞後の活躍
第１回受賞 秋野不矩氏、１９９９年度文化勲章受章
第７回受賞 黒崎彰氏、２００８年瑞宝中綬章受章
第９回受賞 岩倉寿氏、２００３年日本芸術院賞受賞、２００６年芸術院会員
第９回受賞 木村光佑氏、２０１２年瑞宝中綬章受章
第１３回受賞 江里佐代子氏、２００２年人間国宝認定（当時史上最年少）
第１９回受賞 宮瀬富之氏、２００９年日本芸術院賞受賞、２０２２年芸術院会員
第２４回受賞 森村泰昌氏、２０１１年紫綬褒章受章
など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

（４）「京都美術文化賞」の意義
伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激となっている。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価をいただいております。

４．公益財団法人 中信美術奨励基金について
京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(１９８６年１１月)を記念し、１９８７年４月１日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し､伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。２０１１年4月1日より公益財団法人に移行しました。２０１９年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

以　上

星野　暁(ほしの　さとる)　陶芸　80歳



１９４５年新潟県生まれ。’７１年立命館大学経営学部卒業。’７２年より藤平陶芸にて陶芸見習修行。’７４年～’８０年走泥社展出品。’７９年黒陶技法による見える表層から見えない深層に視線を導く「表層・深層」シリーズを開始。
’８６年集中豪雨による山津波にてアトリエ崩壊を体験。以後自然物としての土に身体をもって無媒介に切り込み、混沌から新たなる秩序（作品）の生成に立ち会うと云う姿勢をインスタレーションで展開。’０５年より「始まりのかたち螺旋と出会って」を展開、加えて焼成に置ける溶解の問題に釉薬を使った「春の雪」シリーズで取り組み、また色と指跡による装飾の発生へと展開して現在に至る。
’８１年～’２２年国際陶芸アカデミー会員。’９１年～’０３年大阪産業大学環境デザイン学科にてクラフトデザインを教える。

展覧会：’７９年「第５回日本陶芸展」《表層・深層》出品、’８０年「アート・ナウ’８０」（兵庫県立近代美術館）、「第１３回日本国際美術展」（東京都美術館・京都市美術館）、’９３年見附市文化ホール“アルカデア”（新潟県）に陶壁作品《泡の誕生より古代緑地そして泥炭層へ》委嘱制作、’９９年個展「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」（アリアナ美術館／スイス）、’００年個展「古代緑地」（西フランドル州立近代美術館／ベルギー）、’０１年個展「古代緑地の雨」・パフォーマンス「水・土・日と身体の間で」（ビクトリア&アルバート博物館／イギリス）、’０２年個展「滋賀の現代作家展　星野 暁　黒陶 出現する形象」（滋賀県立近代美術館）、’１０年「第２１回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ」（マニエリ美術館・陶芸博物館／フランス）、’１７年「始まりのかたち－螺旋’１７」（LIXILギャラリー／東京）、’１８年「セラミックス ナウ ファエンツァ ６０周年記念展」（ファエンツァ国際陶芸美術館／イタリア）、「水と土の芸術祭」（新潟市美術館 他）、「インド陶芸トリエンナーレ－開拓」（ジャワハー美術センター／インド）、「台湾国際陶芸ビエンナーレ－人文回帰」（新北市立鶯歌陶磁博物館／台湾）など多数。

受　賞：’７９年「第５回日本陶芸展」文部大臣賞、’８０年「第２回ジャパンエンバ美術コンクール」優秀賞、’９８年「サントリー美術館大賞展－挑むかたち」佐治奨励賞など。

代表作：「表層・深層Ⅱ」（’７９年）、「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」（’９９年）、「始まりのかたち－螺旋’17」（’１７年）

「表層・深層Ⅱ」
1979 年

「再生／コペルニカス以前の泥Ⅱ」
1999 年

「始まりのかたち－螺旋17」
2017 年

村田　好謙(むらた　こうけん)　漆芸　69歳

１９５６年京都府生まれ。’７５年京都市立美術工芸高等学校（旧日吉ケ丘）漆芸科卒業、漆芸作家 服部峻昇氏に師事。’７７年～’８０年日本画専門学校に在籍。伝統的な漆芸技法に加え、多様な表現方法を駆使したダイナミックな構図で、自然の美しさや神秘を表現する。’０８年日蓮総本山身延山久遠寺五重塔内壁画制作。京展、日展など公募展で審査員を務める。
好謙漆工房主催。日展特別会員、日工会常務理事・事務局長、京都府工芸美術作家協会副理事長、創工会会員。

展覧会：’９０年アートフェア（アメリカ、’９７年アメリカ、’０７年韓国、’１７年中国）、’９６年個展（オランダ）、’０１年「京都の工芸展」（京都国立近代美術館・東京国立近代美術館）、「京都の工芸 in エディンバラ展」（イギリス）、’０３年個展（アメリカ）、’０５年「日本・ノルウェー交流１００周年記念展」（ノルウェー）、’０８年「日本・フランス交流１５０周年記念工芸京都展」（フランス）、’１３年「日本・ベトナム交流４０周年記念工芸京都展」（ベトナム）、’１６年「パリ　　１０人展」（フランス）、「台日芸術交流展」（台湾）、’１７年「シーボルトハウス現代漆芸展」（オランダ）、「作家協会選抜展」（中国）、’１８年「上海劉海粟美術館京都工芸選抜展」（中国）、’２４年個展（建仁寺／京都）、’２５年個展（大阪・関西万博／大阪）、など多数。

受　賞：’８４年「日本新工芸展」新工芸賞（’８５年東京都知事賞）、’８６年「全関西展」関展賞１席（’８７年同３席、’８９年委嘱賞）、’８８年「京都府工芸美術作家協会展」京都府知事賞、９１年「京展」市長賞（’９３年同賞）、’００年京都市芸術新人賞、’１１年「日工会展」内閣総理大臣賞（’２１年文部科学大臣賞）、「日中交流芸術大賞展」大賞、’１６年京都府文化賞功労賞、’１９年「日展」会員賞（’２５年文部科学大臣賞）など。

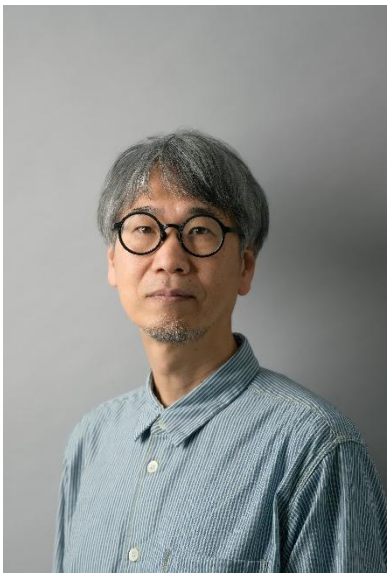
代表作：「命の煌めき」（’１５年）、「天照の空と海」（’２１年）、「生命の泉」（’２５年）

「命の煌めき」2015 年

「天照の空と海」2021 年

「生命の泉」2025 年

大西　伸明(おおにし　のぶあき)　現代美術　54歳



撮影：大河原光

１９７２年岡山県生まれ。’９８年京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了。’１３年～’１４年五島記念文化賞美術新人賞受賞によりドイツ・ベルリンに滞在。版画特有の「複数性」と「単独性」を併せ持つ中間領域を作品の起点とする。樹脂による型取りや版画技法を駆使し、日常に存在する身近なモノの表面を剥ぎ取るように写し出し、新たな形として生み出している。
京都市立芸術大学（版画専攻）教員。多摩美術大学客員教授。

展覧会：’０６年個展「Desktop, Dress, Gray」(国際芸術センター青森)、’０８年個展（入善町 下山芸術の森 発電所美術館／富山)、’１１年個展「UNTITLED」(兵庫県立美術館)、’１２年「自由になれるとき–現代美術はこんなにおもしろい！」(岡山県立美術館)、’１４年「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.04『リアルをめぐって』」(高松市美術館／香川)、’１６年「榮水亜樹・大西伸明」(Galerie Nicola von Senger AG／スイス)、’２０年「京都市京セラ美術館開館記念展 京都の美術２５０年の夢」(京都市京セラ美術館)、’２２年「岡崎和郎・大西伸明『Born Twice』」・個展「光体」(MA2 Gallery／東京)、’２３年「岡山県立美術館３５周年収蔵品展 CORRELATION-交流と継承」(岡山県立美術館)、’２４年個展「影見」(ギャラリーあしやシューレ)、’２５年個展「あらゆる透明なユーレイの複合体」(真庭市蒜山ミュージアム／岡山) など多数。

受　賞：’９７年「全国大学版画展」買い上げ保存賞・観客賞、’０４年「京都府美術工芸新鋭選抜展」最優秀賞、’０７年「あおもり国際版画トリエンナーレ２００７」あすなろ賞、’０８年「第１回岡山県新進美術家育成｜氏賞」大賞、’１２年第２３回五島記念文化賞美術新人賞、’１３年「PAT in Kyoto：第１回京都版画トリエンナーレ」優秀賞、京都府文化賞奨励賞など。

代表作：「Mini cupa」(’０８年)、「Glass」(’２２年)、「Dodge ball」(’２５年)

「Mini cupa」2008 年

「Glass」2022 年

「Dodge ball」2025 年
撮影：大河原光

京都美術文化賞　受賞者　　※は故人

第１回(1988 年 5 月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	※坪井 明日香(陶芸)
第２回(1989 年 5 月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第３回(1990 年 5 月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第４回(1991 年 5 月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(直入・陶芸)
第５回(1992 年 5 月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第６回(1993 年 5 月)	※中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第７回(1994 年 5 月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第８回(1995 年 5 月)	※下村 良之介(日本画)	番浦 有爾(彫刻)	深見 陶治(陶芸)
第９回(1996 年 5 月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第 10 回(1997 年 5 月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 眞成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第 11 回(1998 年 5 月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	※澁谷 和子(染色)
第 12 回(1999 年 5 月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第 13 回(2000 年 5 月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第 14 回(2001 年 5 月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第 15 回(2002 年 5 月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第 16 回(2003 年 5 月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第 17 回(2004 年 6 月)	※加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	※林 秀行(陶芸)
第 18 回(2005 年 6 月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第 19 回(2006 年 6 月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子(ﾌｧｲﾊﾞｰｱｰﾄ)
第 20 回(2007 年 6 月)	※入江 酉一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第 21 回(2008 年 6 月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第 22 回(2009 年 6 月)	※三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第 23 回(2010 年 6 月)	西久松 吉雄(日本画)	※野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第 24 回(2011 年 6 月)	山本 容子(版画)	小林 尚美(ﾌｧｲﾊﾞｰｱｰﾄ)	森村 泰昌(現代美術)
第 25 回(2012 年 5 月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ﾌｧｲﾊﾞｰｱｰﾄ)
第 26 回(2013 年 5 月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第 27 回(2014 年 5 月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第 28 回(2015 年 5 月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ﾌｧｲﾊﾞｰｱｰﾄ)
第 29 回(2016 年 5 月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第 30 回(2017 年 5 月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第 31 回(2018 年 5 月)	※小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第 32 回(2019 年 5 月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第 33 回(2020 年 5 月)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)
第 34 回(2021 年 5 月)	大野 俊明(日本画)	児玉 靖枝(絵画)	髙橋 匡太(現代美術)
第 35 回(2022 年 5 月)	伊庭 靖子(洋画)	笹井 史恵(漆芸)	中原 浩大(現代美術)
第 36 回(2023 年 5 月)	北山 善夫(絵画･彫刻)	岸 映子(陶芸)	西山 美なコ(現代美術)
第 37 回(2024 年 5 月)	猪熊 佳子(日本画)	吉岡 俊直(版画)	草間 喆雄(ﾌｧｲﾊﾞｰｱｰﾄ)
第 38 回(2025 年 5 月)	川嶋 渉(日本画)	赤松 玉女(洋画)	宮永 東山 (陶芸)
第 39 回(2026 年 5 月)	星野 暁(陶芸)	村田 好謙(漆芸)	大西 伸明(現代美術)

絵画　　４３名（日本画２１名　洋画１４名　版画７名　その他１名）
彫刻　　１３名
工芸　　４２名（染織１３名 陶芸２０名 漆芸５名 截金１名　截金ガラス１名　人形１名 ガラス造形１名）
その他　１９名（写真３名 ファイバーアート５名 マルチメディアアート１名 花人１名 現代美術９名）

計　１１７名